



よしまい

2022年 春号



春だよ～♪

目次

公園の風景

- ・ツクシだれの子？スギナの子？・・・1
- ・ある日のミサゴさん・・・・・・・・・・1
- ・ヨシ原探検・・・・・・・・・・・・・1

ラムサール登録への道 ② ・・・・・・・・2

みんなのひろば

- ・私の一推し・・・・・・・・・・・・・・2

活動紹介

- ・輪を広げよう・・・・・・・・・・・・・・3
- ・公園に春が来る！・・・・・・・・・・・・3
- ・一年の振り返りと新年度に向けて・3

発行：「葦の会」機関紙チーム

事務局：〒754-1277 山口市阿知須 509-53

きらら浜自然観察公園内

電話 0836-66-2030 (FAX 66-2031)

mail ashinokai.kirara@gmail.com

「葦の会」はきらら浜自然観察公園で活動するボランティアグループです。自然を楽しみながら、その素晴らしさを一緒に学び伝えていきませんか？

会員募集中！（高校生以上）

公園の風景



= ツクシだれの子?スギナの子? =

春の到来が間近いのを教えてくれる雑草はオオイヌノフグリ。そして公園において次に顔を出すのが(ツクシ/土筆)だ。ツクシはスギナの胞子を飛ばすための胞子茎で、スギナに付いて出てくるから^{ツクシ}と呼ばれている。スギナ本体が生えてくる前に同じ地下茎から先に顔を出したツクシは、胞子を飛ばし終わると枯れていく。つまりツクシはスギナの子供ではなく、スギナの一部なのだ。(スギナ/杉菜)は姿がスギに似ているので付けられた名前、シダの仲間でトクサ科に分類される。

公園内ではあちこちで見かけられるが、まだ春浅い樹林帯とヨシ原の間の土手では、地面から 10 cmに満たない草丈で顔を出し「春だよー 春だよー」と可愛い姿を見せてくれる。

= ある日のミサゴさん =



公園の看板にもなっているミサゴが、干潟に何本か立ててある杭の上にとまっているのがよく見られます。大きな魚を片足で押さえつけ、頭から尾までゆっくりときれいに食べきる食事の様子は、ホールに設置されたスコープで見ると迫力満点です。

先日も 1 羽のミサゴが大きな魚を掴んで杭にとまりました。さあ、これからという時、あれ?こんな時いつも近くにおこぼれを狙っているアオサギは?……と見回すと、軍艦鳥よろしくすごいスピードで飛んできたアオサギ2羽。おこぼれどころか、奪う気満々です。ミサゴさん、「マジかよ!」とばかり獲物をしっかりと掴みなおし、すぐさま飛び去って行きました。強気のアオサギがいるものです。

ところで、猛禽らしくちょっと怖い顔をしたミサゴですが、意外にも鳴き声はピィオピィオとかピィピィと可愛く、そのギャップには笑えます。

= ヨシ原探検 =

公園の一画を占める広大なヨシ原は、一見すると何もなただの草地に見えますが、中はどうなっているのでしょうか?



2月23日(水・祝)に行われた公園初のイベント「ヨシ原探検」では、親子連れなど 40 数名が大人の背丈を軽く超えるヨシのジャングルの中に入りました。迷子にならないよう気をつけながら枯れヨシを手でかき分け、長靴でバリバリと踏み倒しながら思い思いの方向へ歩いていきます。地面には瑞々しい緑の草も生え始めていました。目ざとい子供たちはさっそく動物のフンや、親



カヤネズミの巣だよ

指ほどの小さなカヤネズミが作った巣を見つけました。トンボ池に薄氷の張る気温の低い日でしたが、ヨシ原の中は暖か。外敵から身を隠すのにも絶好の場所です。昆虫やヨシの茎に付くカイガラムシなど食料も豊富で、なるほどここは生き物たちの楽園なのでした。開発で減少の一途をたどってきたヨシ原をできる限り守っていきたいですね。

ラムサール登録への道 ②



湿地と聞いてイメージするのはどんな場所でしょうか？

多くの人は「自然に出来たヨシ原や釧路湿原みたいな場所」を思い浮かべるかと思いますが、ラムサール条約の定義する湿地はもっと広く「一時的にでも何かしらの水がある場所(海の場合は干潮時の水深 6m 未満)」です。

全然イメージがわからない？では日本の登録地で具体的な例をあげてみましょう。

釧路湿原(低層湿原)、尾瀬(高層湿原)、渡良瀬遊水池(人工遊水池)、谷津干潟(干潟)、琵琶湖(淡水湖)、宍道湖(汽水湖)、出水ツルの越冬地(水田)、久米島の溪流・湿地(溪流)、慶良間諸島海域(サンゴ礁)、名蔵アンパル(マングローブ林)、そして山口県の誇る秋吉台地下水系(地下水系)など。見聞きしたり行ってみたりしたことのある場所もあるのではないのでしょうか。

とはいえ自分とは関係のない遠い世界のことだもの、と思ったら大間違い。湿地は私たちの生活にふかーく関係しているのです。(つづく)

みんなのひろば😊

私の一押し

山口市徳佐にある本州最西端のスキー場、^{とくさがみね}十種ヶ峰スキー場を紹介します。

阿知須からでも近距離にあり、国道 9 号線を北上し、徳佐から船方牧場方面へ向かい、嘉年から林道十種ヶ峰線、冬用タイヤが必要ですが所用時間 1.5 時間になります。

スキー場はリフト 1 基の設置あり、初級者から上級者まで楽しめます。雪が 20～30 センチで滑降可能なところがうれしいです。



リフトが設置されてから毎年雪の量が少ないので滑走日も減少していますが、スキーの初級者から上達を目指す者にとっては、体力の限界まで挑戦でき「マイグレンド」になるのは間違いないと思います。

そりコースやストライダー(写真)もあり、ファミリーでも安全に楽しむことができます。キャンプ場もあるので、今流行りの一人キャンプなどもどうでしょうか。

スキーを楽しんだ帰路には、近くにある「道の駅・願成就温泉」に浸かるのも一計です。

(Y.O)



活動紹介

= 輪を広げよう =

公園が4年前から目指していること、それは湿地や水鳥を守るための国際条約「ラムサール条約」に山口湾が登録されることです。ご存じの方が少ないこの条約、葦の会は缶バッジの作成や機関紙の連載コーナー等で周知活動をしています。又、葦の会が月に1回実施している「クロツラヘラサギ生息調査」は、山口湾を一周しながら、朝鮮半島からの渡り鳥で絶滅危惧種であるクロツラヘラサギが、どこで何羽確認できたかを記録してデータを残しています。



干潟のアンプシラ種(傘種)であるクロツラヘラサギは、山口湾の生態ピラミッドの上位となる存在です。クロツラヘラサギを保護することは、傘の下にいる生き物たちを保護するということなのです。

これらの活動は、現代社会が取り組んでいるSDGs(持続可能な開発目標)にもあたります。思いを共にされる方、葦の会で自然の尊さや素晴らしさを共有してみませんか。

= 公園に春が来る！ =



3月5日(土)に恒例のヨシ焼きが実施され、葦の会も生木でたたいで消火する係などとして参加しました。無風だったのに火を付けた途端に強い西風が吹き始め、どうなることかと心配しましたが、滞りなく終わることができました。燃え上がるヨシ原を見るのはいつもながらワクワクするものです。でも真っ黒になった地面が、春が進むにつれ徐々に新緑色に染まっていく様子にそれ以上にワクワクします。

= 一年の振り返りと新年度に向けて =

<俳句教室 最多選句>

3年越しとなる予想外なコロナ禍でのボランティア活動でしたが、葦の会は活動を続けています。定期活動のほか、葦の会の主催行事も若干の縮小があったものの、会員の協力のもと「夏休み子ども早朝観察会」「ふれあいまつり」「クリスマスリースを作ろう」「きらら浜おみくじ」を実施しました。クロツラヘラサギの生息調査も継続しています。

また、昨年度に企画された図鑑完成に向け資料集めを行い、葦の会20周年記念としての「公園の生き物図鑑」の完成を目指しています。新規活動としてはア



サギマダラのためのフジバカマの植え付けを行っています。加えて葦の会のホームページを新しく立ち上げるべく、ただ今準備中です。

(葦の会代表 村田敬子)

←フジバカマ植え付け作業

・ 水面鏡突きて溢るる水の泡	・ 大空の風になりたる鷹ひとつ	・ 浮島に数羽集いて日向ぼこ
はるか	恵子	清子

1月

<編集後記>

機関紙よしきり春号(No.115)のお届けです。自然界のサイクルのもと、公園の生き物たちは粛々と活動を始めています54。我々人間も仕切り直して、元気出していきましょう！